

児童・青少年サービス研修

6月18日(水)午前、平成20年度公立図書館等職員研修 児童・青少年サービス研修が行われました。今年度は静岡文化芸術大学文化政策学部の准教授であり、公共図書館児童サービスをご専門に研究されている林左和子氏を講師にお迎えして、「児童資料の選書と提供」というタイトルで講義をしていただきました。

林先生には子どもと本を結びつけるために図書館の果たす役割を大変わかりやすくお話しいただき、受講者の皆さんは大変熱心に聴講されていました。先生のお話の中にあつた、社会全体で子どもを育てる、という意識を再確認して、静岡県の図書館の児童サービスを盛り上げていきましょう。

(2ページ目にて、概要を紹介します。)

子ども図書研究室講演会

6月18日(水)午後に、静岡県立中央図書館の図書館講座として、子ども図書研究室講演会を開催しました。

講師に灰島かり氏(翻訳家・児童文学研究者)をお迎えし、「すばらしい翻訳・困った翻訳 絵本の翻訳ウラ話」と題してお話を伺いました。

灰島氏は翻訳家として数々の海外作品を翻訳されているだけでなく、白百合女子大学などで児童文学論を教え、また研究書なども手がけています。

講演には図書館関係者や翻訳家を目指す方、講師のファンの方など、150名を超える方々が参加され、講師の話に聞き入るとともに、質疑応答の時間には積極的に質問をされていました。

(3ページ目にて、概要を紹介します。)



子ども図書研究室のテーマ展示

ただいま展示中です!

星の絵本 静岡県図書館大会関連資料
新着図書も常時展示中です。



イベント情報

平成20年度第16回静岡県図書館大会

会場：静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ 静岡市駿河区池田 79-4
日時：平成20年10月27日(月)9:50~15:30
申込方法：申込用紙(県立図書館ホームページから
プリントアウト・県内公共図書館で配布)
に記入の上、来館、郵送またはFAXで
宛先：静岡県立中央図書館企画振興課振興係
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-1
FAX：054-264-4268
締切：平成20年10月3日(金)

子どもの本に関する分科会：13:30~15:30

第2分科会 《乳幼児・児童・YAに対するサービス》
テーマ：「ヤングアダルト(YA)サービス はじめの一歩 ~YAって何? YA世代を惹きつけるにはどうすればいい?~」
講師：猪飼 由利子 氏(滋賀文教短期大学司書講習講師)

第3分科会 《子どもと読書》
テーマ：「きむらゆういちの仕事 ~作家人生は、工作から始まった~」
講師：きむら ゆういち 氏(作家、『あらしのよるに』他)

第7分科会 《学校図書館》
テーマ：「学校図書館の可能性~校長だからできること、行政だからできること、わたしだからできること~」
講師：小林 路子 氏(慶應義塾大学非常勤講師)
小林 成樹 氏(常葉学園大学教育学部附属小学校長)



選書の目的 選書は資料提供のためであるという前提を忘れず、どう提供するかまで考えて選書することが大切です。

子どもと読書
読書の意義 本というメディアは、知識や情報を得る上で、想像力（文字に書かれたものを、頭の中で作り上げていく作業）を必要とします。また、広い意味での「読む」力を必要とします。それはメディアが何らかの意図を持って情報を発信しているのかどうかまで読み取る力です。

読む力を高めるために 自分で本に出会う体験が重要です。本を選ぶということは体験の中で身につくものです。図書館の役割は、子どもが自分で選ぶことができるようにいろいろな本が置いてあることはもちろん、図書館の本を良く知っていて、目の前にいる子どもに必要な本を提供できる図書館員のサポートも必須です。

選書にあたって考慮すべき点
子どもの本選びと児童書の出版流通

子どもの潜在的な要求を掘り起こすことが必要です。各々の子どもの興味に対応する本はあるはずですが、子どもは同じタイプの本を読み続ける傾向があり、シリーズ物が好まれますが、そこからちょっと出た世界を知らせることも必要です。少し残酷に思えるものでも、子どもには受け入れる能力があると思います。また、子どもの本は、よい絵本でもすぐに絶版になるので、原則として買える時に買っておきます。特に幼年向きの物語は注意しましょう。

収集方針と予約・リクエスト どんなコレクションをつくりたいか、リクエストにどのように応えるか、（複本を置くか、収集方針に合わない場合はどうするか、など）方針を決めておきます。また、収集方針については1館だけでなく、他の図書館との連携も必要となります。

除籍 予算が許せば、明確な方針を立てて積極

的に行いましょう。

学校などとの連携 学校でどんな本を収集しているか、どんなことを勉強しているかを知り、図書館は、本を用意して提供できるようにしておきます。

説明できますか？ 図書館員は自治体の住民に対して説明責任を負っています。個々の担当者別ではなく図書館全体として責任を持つ必要があります。

選書の三過程
準備と選書作業 準備として、主題別にどのような本が入っているかを把握し、まず導入的なもの、次に、もっと詳しい説明や新しい情報が載っているものを調べ、図書館に足りないものは何かを洗い出します。

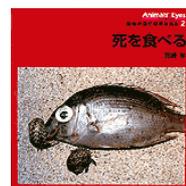
アフターケア 利用が多いものは複本や同種の本を用意する検討をします。利用が少ないものは、ブックトークや読み聞かせなど、本を知ってもらう方法を考えてください。

マイノリティの子どもたち
多文化サービス まず自治体の外国籍の子どもたちの状況を把握することです。次に、何が求められているのか、どう提供するかを検討します。

障害者サービス 障害のある子どものための絵本（バリアフリー絵本）と、障害について書かれた本があります。前者はすでに商業ベースに乗り始めています。

多文化サービス、障害者サービス共に公的機関が行うべきサービスです。図書館は情報収集に努めましょう。

所蔵資料から
知識 『アニマルアイズ 動物の目で環



境を見る 2 死を食べる』
宮崎 学 / 著 偕成社
2002年3月

動物の死骸に集まる生き物たちを、観察しながらカメラにおさめた写真絵本。食物連鎖を理解するための一助となろう。今回の講義の中で紹介された。【小学校低学年から】(牧田)

子ども図書研究室講演会 報告

講演は、有名な翻訳作品や灰島氏自身が訳した本などについて、実物や原文を見ながら行われました。



初めに、翻訳作品の傑作として『三びきのやぎのらがらどん』（マーシャ・ブラウン / え せた ていじ / やく 福音館書店）を挙げました。この本の主役である三びきのやぎは、原文では "Gruff"（「しわがれごえの」「らんぼうごえの」の意味）と呼ばれています。訳者の瀬田氏は、そこから「がらがら」という言葉を選び、さらに「どん」という音を加え、「がらがらどん」という名前を生みだしました。子どもにとって重要な、音の響き・親しみやすさを備えた、「芯でとらえた訳」といえるでしょう。

逆に、翻訳に苦心した点が見える例として、『おかあさんだいすき』（マージョリー・フラック / [著] 光吉 夏弥 / やく 岩波書店）を挙げました。原文のラストでは、Bearから教わった Bear Hugをお母さんにプレゼントした、となっています。しかし当時の日本では、まだ子どもに、いわゆる「クマさんだっこ」をする風習が根付いてなかったため、「クマからクマさんだっこを教わった」という表現を変えざるを得ませんでした。また、他の書籍と合わせて、縦書き・右開きでの出版となりましたが、一部で絵を逆版にせずそのまま用いたことで、物語の進行方向と絵の方向が合わない部分もできています。

上記のように、翻訳作品には翻訳した時代を反映したものが多くあります。これにより、原著より作品の寿命が短くなることもありますが、逆に昔の作品であっても時代にあった新しい翻訳文で読むことができるという長所もあります。

翻訳のテクニックについても、『げんきなマドレーヌ』（ルドウィッヒ・ベーメルマン

ス / 作・画 瀬田 貞二 / 訳 福音館書店）を元に解説されました。日本語は、七五調にすることで軽やかなリズムが生まれます。しかし多用すると単調に感じてしまうので、意図的に七五調を外す必要も出てきます。同じく日本語を楽しくするオノマトペ（擬音語・擬態語）も多用を避け、効かせどころで使う必要があります。

自身の仕事にも触れ、最近思ったこととして、"fair"の訳を挙げました。"fair"は訳



すると「正しい」「公明正大」ですが、欧米文化では「神の前での正しさ」として使われます。では、今の日本文化における「正しい」は何なのか、こういった言葉を使えば「正しい」を子どもに伝えられるか、などを考えさせられた、とのことでした。また、ご自身の翻訳本についても言及され、"Good night, Good knight"（邦題『さびしがりのドラゴンたち』 評論社）は言葉遊びを本文に盛り込んだことや、『公爵夫人のふわふわケーキ』は、昔の時代の絵本ならではの楽しさがあり、こういったものをもっと出したい、といった話を伺うことができました。

上記以外にも翻訳絵本の紹介や、尊敬する訳者の話など、お話は多岐に渡りました。

所蔵資料から

絵本 『公爵夫人のふわふわケーキ』



ヴァージニア・カール / 作
灰島 かり / 訳
平凡社
2007年2月

ある日、公爵夫人は、公爵さまと13人のひめさまたちにケーキを作ろうとしたが、ケーキはふんわりふわふわ膨らみ続け、ついには公爵夫人を乗せたまま空へと登ってしまう。おおらかでユーモアの利いた絵本。【4、5歳から】

（渡辺勝）

新着資料から

絵本

『たこやきかぞく』



にしもと やすこ / 作・絵
講談社

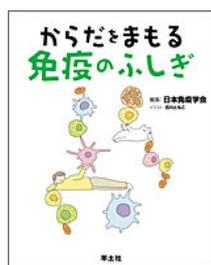
2008年5月

父さんたこやき、母さんたこやき、姉さんたこやき、たこやき坊や、赤ちゃんたこやきの「たこやきかぞく」は、焼き加減、形、新鮮なタコなど、「たこやきのいのち」にこだわりながら、自分でひっくり返ったり、息を止めてふくらんだり。落雷による停電のハプニングも乗り越えて、見事に「まわりはカリッとなかはトロッと」焼き上がり、人間たちにおいしく食べられることができた。

たこやきも人間も、表情豊か、ユーモラスに描かれている。第29回講談社絵本新人賞受賞作。【4、5歳から】 (鈴木由)

知識

『からだをまもる免疫のふしぎ』



日本免疫学会 / 編集

羊土社

2008年5月

私たちの体を守るため日々働いている細胞たち。彼らはどのようにして作られ、異物を追い出し、そして免疫を作っていくのだろうか。

人間の体を守る免疫のしくみや病原菌との戦いに加え、エイズなど免疫と関係の深い病気や、免疫がひきおこすアレルギーなどについても併せて解説している。ふりがな付きの文書に加え、イラストもふんだんに使っており、人体についての知識が無くても楽しめる。また日本免疫学会が監修しており、子どもだけでなく、大人が読んでもしっかりとした知識が身に付く。

【小学校中学年から】

(渡辺勝)

物語

『体育座りで、空を見上げて』



椰月 美智子 / 著

幻冬舎

2008年5月

中学校での3年間を描いた物語。クラス替えがあり、部活動に励み、付き合い始めた同級生の噂話をし、制服の第2ボタンをもらう。主人公妙子は反抗期の真っ最中にあり、学校生活を楽しみながらも、将来への不安を持ち、母親に対してキレる自分を抑えられないでいる。読者はその葛藤に共感し、励まされるのではないかな。

一方で、1970年生まれの著者が経験した時代背景が丸ごと描かれ、その時代の音楽や映画などがふんだんに登場する。当時を知らない今の中学生はどう読むのだろうか。【中学生から】

(鈴木由)

絵本

『みつばちみつひめ』

てんやわんやのおてつだいの巻』



秋山 あゆ子 / 作

ブロンズ新社

2008年5月

みつばちひめのみつひめさまは、はちのすじょうの御殿に住んで、なに不自由ない暮らし。でもほんとはとっても退屈。強引に働き蜂のお手伝いをしたのはいいけれど、蜜を入れる大事な壺をたくさん壊してしまい、どうしようもなくなってお城を飛び出した。

失敗にめげるところか、楽しそうに代わりの壺作りに頑張るみつひめと、それを助けてくれるハチたちが、チャレンジする勇気を与えてくれる。時代劇仕立ての絵に特徴のあるハチたちの登場、ちょっとした遊び心と、リズムのある文章が楽しい。【4、5歳から】 (牧田)